

2020年3月期第2四半期累計 決算説明資料

菊水電子工業株式会社
www.kikusui.co.jp



コンパクト・ワイドレンジ直流電源
PWR-01シリーズ

目次

会社紹介

P3～

2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

P12～

2020年3月期 連結業績予想

P23～

今後の事業戦略

P25～

会社紹介

会社紹介

● 会社概要 (2019年9月末現在)

社名(銘柄コード)	菊水電子工業株式会社(6912)	
設 立	1951年(昭和26年)8月8日	
資 本 金	22億125万円(3月決算)	
発行済株式数	9,900,000株(1単元株数100株)	
事 業 内 容	各種電子計測器・産業用電源装置・ ソフトウェアの設計、製造、販売及び輸出入	
大 株 主 (自己株式は含まず)	菊水取引先持株会	11.12%
	株式会社ケーティーエム	10.99%
	菊水電子工業従業員持株会	5.45%
	株式会社みずほ銀行	4.35%
	小林寛子	4.19%
	日本生命保険相互会社	3.64%
	ケル株式会社	2.66%
	株式会社三菱UFJ銀行	2.59%
	橋本幸雄	2.27%
	三井住友信託銀行株式会社	2.21%
代 表 者	代表取締役社長 小林一夫	
従 業 員 数 (当社グループ)	312名(2019年9月末現在) []は前年比増減 研究開発: 96名 [+10] 生産・購買: 75名 [-1] 営業: 111名 [+7] 管理: 30名 [±0]	
主 要 納 入 先 (順 不 同)	防衛省、株式会社日立製作所、株式会社東芝、 三菱電機株式会社、日本電気株式会社、 トヨタ自動車株式会社、株式会社デンソー	

テクノ
フロンティア
2019



お客様相談
チャットボット
(osapon)
を試験導入



会社紹介

● 国内外拠点・関連子会社



会社紹介

沿革

1951
昭和26年

株式会社菊水電波設立
8月8日、東京都大田区馬込にて
資本金20万円、従業員1名、従業員数を増やす
主要製品はラジオ用ダイヤル

創業社長 小林 健
(当時の写真、右)

初期のダイヤル

創業時の建物

創業メンバー
小林正樹 (相談役)、小林 健 (創業者)、尾崎保彦 (副社長)
渡辺正彦 (取締役)、一柳敏昭、三島 博也

1957
昭和32年

ダイヤルから
測定器メーカー菊水へ
計測器ダイヤルの売上を上回る
OEMのトランジスタラジオも生産

低周波デイクード発振器
DR10-330A
磁気コアデイクード方式
なみなり便利の製品であった

ロングウェーブTRラジオ
TR-804
FM放送して11.1
トランジスタラジオ

1961-62
昭和36~37年

菊水電子工業株式会社
社名を変更
専業電子機器製造会社として
方針転換することにより方向性を定め

ダイナミック・インダクタンス
507A
高感度・高精度のインダクタンス
電圧計・電流計・電圧比較器
電圧比較器用電源

電圧比較器用電源
DR-107
電圧比較器用電源
電圧比較器用電源
電圧比較器用電源

1971-74
昭和46~49年

創業120周年
第一次創業の店
色紙、由緒に由来する
電子計測器の導入

1966-68
昭和41~43年

第一次創業の店
創立12周年
計測器の生産・販売
計測器の生産・販売
計測器の生産・販売

昭和41~43年
創業12周年
計測器の生産・販売
計測器の生産・販売
計測器の生産・販売

1981-82
昭和56~57年

米空軍との大型商談
オシロ 7100台 (20億円)
オシロの商談として世界最大の取引
北関東某研究所

計測器で米軍の一番札
毎日新聞
計測器で米軍の一番札
計測器で米軍の一番札

1985-88
昭和60~63年

オシロスコープCOM3000シリーズ
グッドデザイン産業機械部門大賞を受賞
オランダに「菊水ヨーロッパ」を設立
英国マルコーニ、インスツルメンツ社と
日本総代理店契約締結

計測器業界初の快挙！
グッドデザイン産業機械部門
大賞を受賞した
オシロスコープ
COM3000シリーズ

オシロスコープ COM7000シリーズ
営業が承かすとも広告だけで
どんどん注文が舞い込んだヒット製品

1989-91
平成元~3年

株式会社店頭公開
西東京営業所 開設
専用物流会社
ケイアールシー株式会社設立

1991年11月
株式を店頭市場に新規公開
公開による新株発行数：75万株
発行価格：2,330円/1株

1990年6月
立川市に
西東京営業所
開設

株式会社公開の頃の本社 (川崎市中原区)
平成3月期 売上高112億、従業員数398名であった

2000-01
平成12~13年

ISO14001認証取得
IT(システム)による業務効率化
ISO14001認証取得
IT(システム)による業務効率化
ISO14001認証取得
IT(システム)による業務効率化

2001年発売の4種類のグッドデザイン賞を受賞！
GOOD DESIGN AWARD 2001

1995
平成7年

1995年12月22日
品質マネジメントシステム
ISO9001認証を取得
登録証番号JQA-1100

●ホームページ開設
●営業活動の効率化
●顧客対応の向上
●品質管理の徹底
●業務の透明化

会社紹介(事業概要)

● 事業活動トピックス



<中国>



<米国>



<欧州>

<新製品>

<経営施策>

2005

・大連化学物理研 (DICP) 技術提携

・キクスイ・アメリカ設立(販売拠点)

・PATシリーズ(直流)



・創立55周年記念行事

2006

・菊水貿易(上海) 設立(販売拠点)

・グローバル製品上市 (PCR-Mシリーズ)



・KHA1000(EMC)
・PLZ6000R(回生負荷)
・TOS3200(漏洩電流試験器)
・PWR、PCR-Mラインアップ追加

・PATスマートラック

・国内営業所統廃合

2007

2008

・欧州代理店網再編…
・Electronica 2008出展

・KHA3000(EMC)
・PFX2511(バッテリー充放電試験システム)

2009

・菊水貿易(上海)の分公司統廃合
・生産拠点の合理化(菊水電子(蘇州)閉鎖)

・TOS5300シリーズ(耐電圧・絶縁抵抗試験器)
・Milla-E50(電気自動車(EV)急速充電器)

2010

・Electronica 2010出展

・PCR-LEシリーズ(高性能交流電源)
・PWXシリーズ(薄型直流電源)

・創立60周年記念行事

2011

・PCR-LE、PWXラインアップ追加
・Milla-E20(電気自動車(EV)急速充電器)



2012

・Electronica 2012出展

・TOS9213AS(太陽光パネル用耐電圧・絶縁抵抗試験器)
・PLZ-4W(電子負荷)スマートラックの拡充

2013

・深圳分公司設立

・TOS7210S(PID絶縁試験器)
・TOS5200(耐電圧試験器)

2014

・Electronica 2014出展

・PMX-Aシリーズ(小型直流電源)



2015

・PLZ-5Wシリーズ(電子負荷)

・富士勝山事業所にデモルーム開設
・Webサイト「KIKUSUI mag」開設

2016

・Electronica 2016出展

・PWR-01シリーズ(直流電源)

・本社移転

2017

・ソリューションWEBサイト開設

・ソリューションWEBサイト開設

・PLZ-5WHシリーズ(電子負荷)
・PCR-WE/WE2シリーズ
(大容量スマート交流・直流安定化電源)



2018

・北京分公司設立

・トールランス市に移転

・Electronica 2018出展

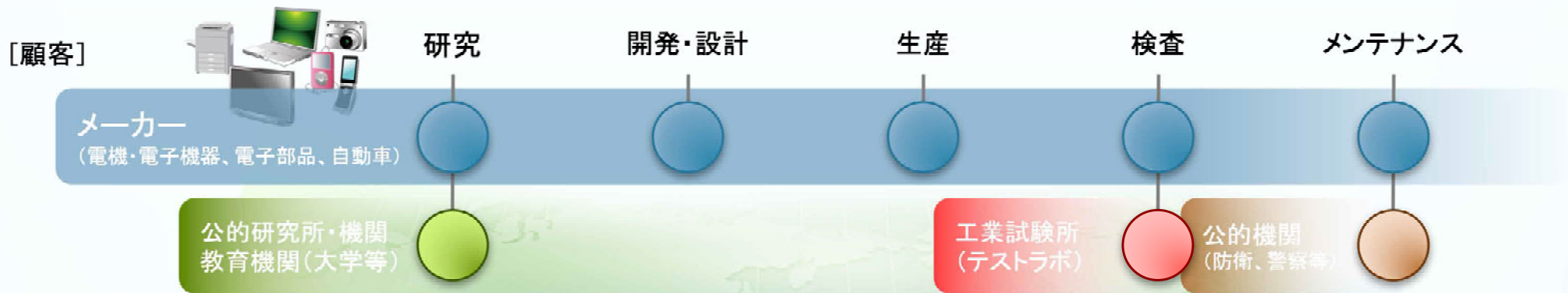
会社紹介

● ビジネスモデル

当社の独自性

計測技術と電源技術の両方を有していること！

(微小から大電流まで、電気エネルギーを高精度で制御、測定する技術・ノウハウ)



グローバルに販売展開！

電子計測器

電気のモノサシ、産業の「マザーツール」として、家電製品、OA機器、電子製品などの「安全性」や「正確性」の測定・試験に使用されます。近年は、自動車のノイズ耐性(EMC)に関する試験、またEV用バッテリーの絶縁性能試験の測定需要が高まっています。

耐電圧試験器



EMC試験器



電源機器

研究開発や製造工場などで、安定した電力(直流・交流)を供給する設備として使用されます。近年は、ハイブリッドカー・電気自動車の評価に必須となる電子負荷装置(電力を消費する装置)、パワーコンディショナーなどの評価に必要な交流電源の需要が高まっています。

直流電源



交流電源

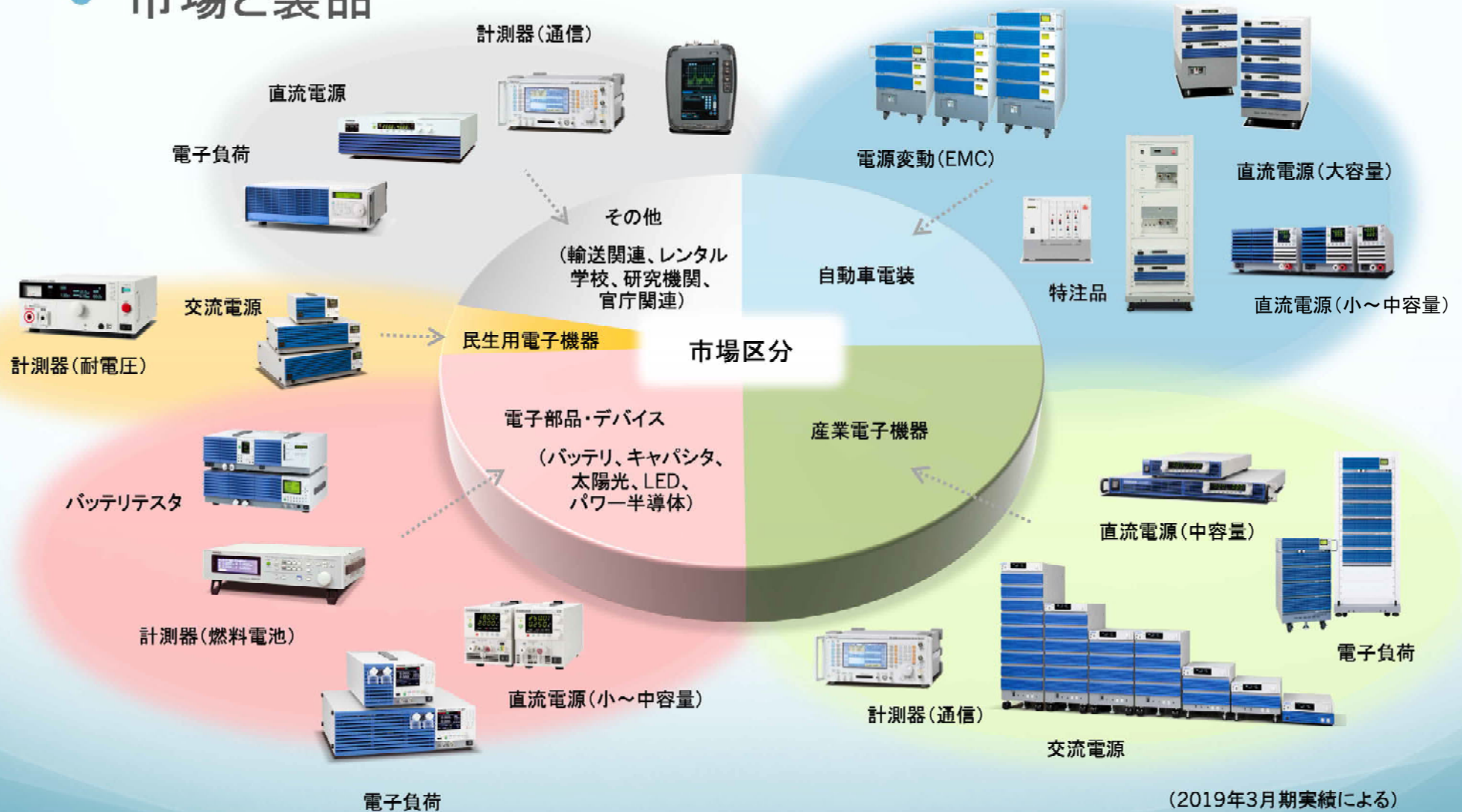


電子負荷



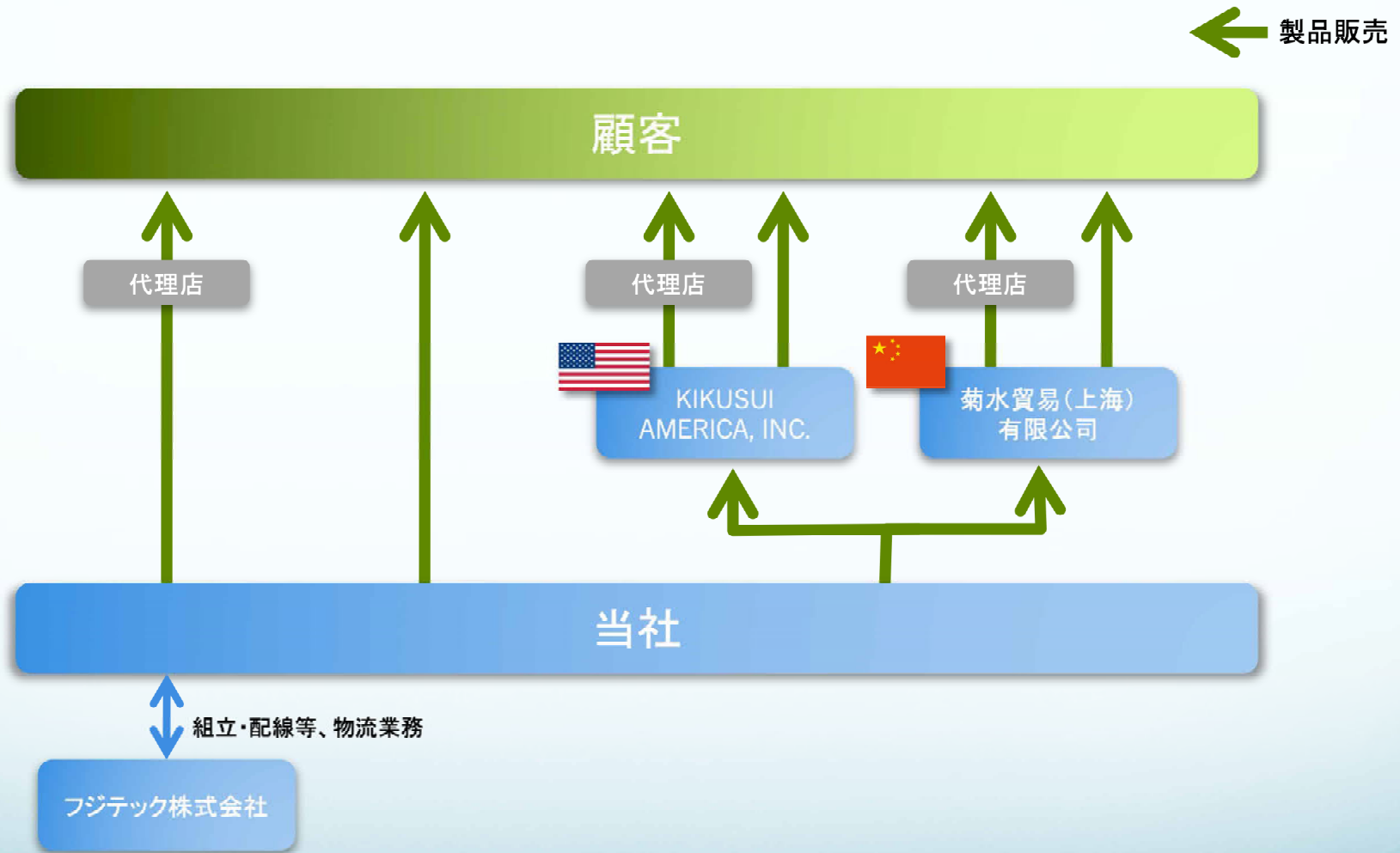
会社紹介(事業概要)

● 市場と製品



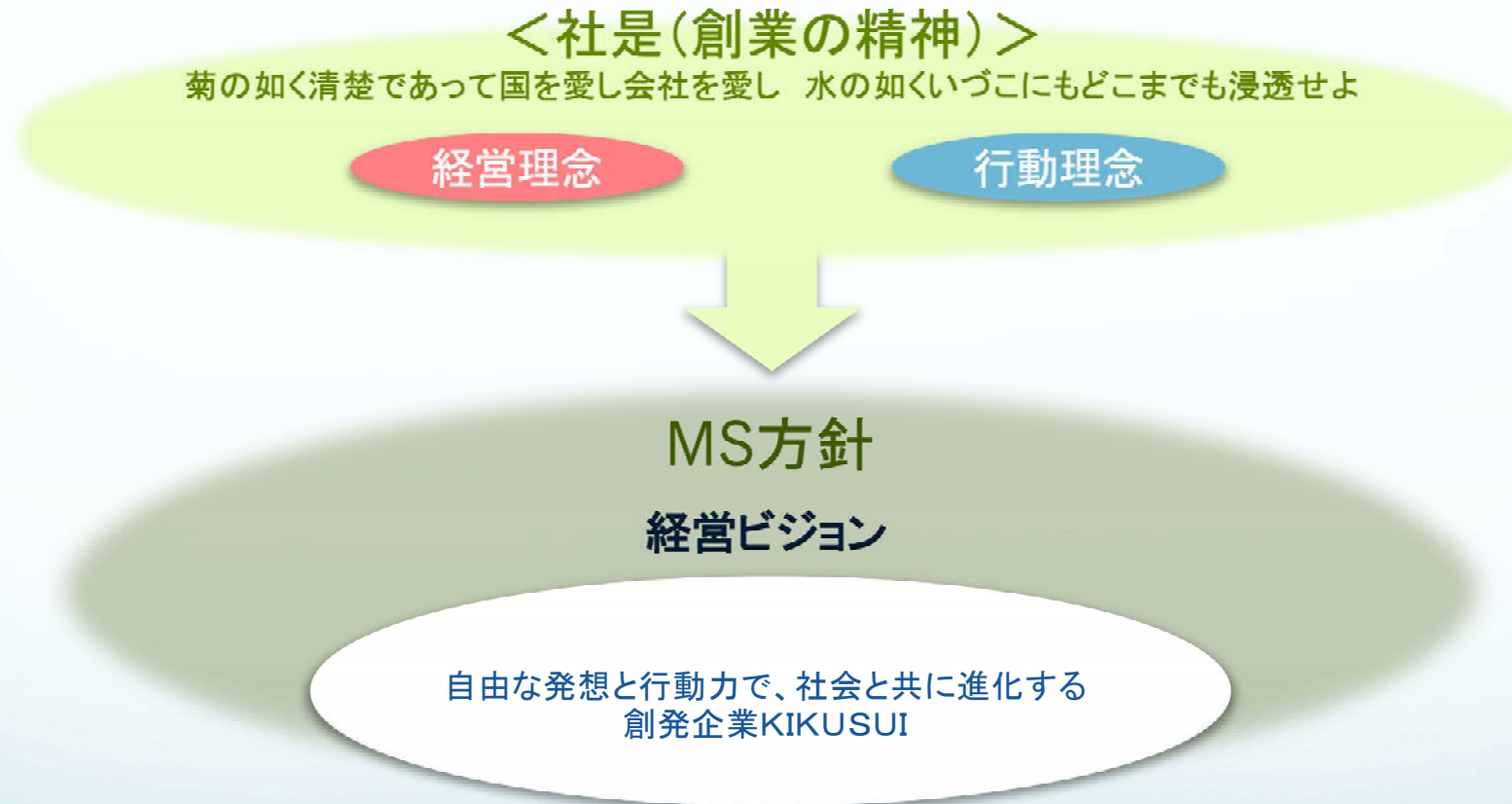
会社紹介

- 事業系統図



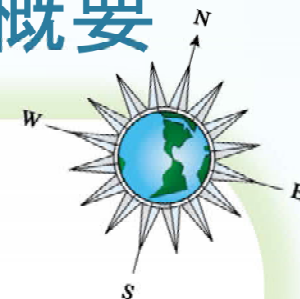
会社紹介

- コーポレートステートメント



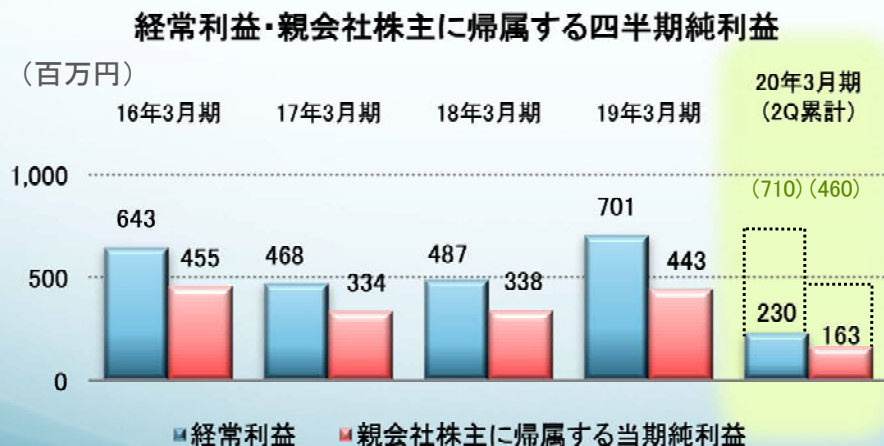
2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要



● 決算サマリー

- 売上高・経常利益・親会社株主に帰属する四半期純利益



経営の概況

当社グループが属する電気計測器業界においては、当社グループの重点市場である次世代自動車関連市場では、EV(電気自動車)、自動運転、先進安全自動車及びこれらに関わる市場からの電気計測器の需要は増加傾向にありました。また、冷凍空調市場では、省エネ対策だけではなく、システムの省力化・自動化等高付加価値化への取り組みに対する設備投資は堅調でありましたが、全般的な需要動向は国内外の経済鈍化の影響により厳しい状況にありました。

このような状況の中、当社グループは、米中貿易摩擦の影響があったものの、次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたシステム提案営業を積極的に展開し、また、組織人事等海外市場への販売体制強化策の実施や販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、海外売上高が増加したこと等により、41億5千2百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

損益面におきましては、営業利益2億2千万円(前年同期比21.6%増)、経常利益2億3千万円(前年同期比22.7%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益1億6千3百万円(前年同期比66.3%増)となりました。

2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 損益計算書

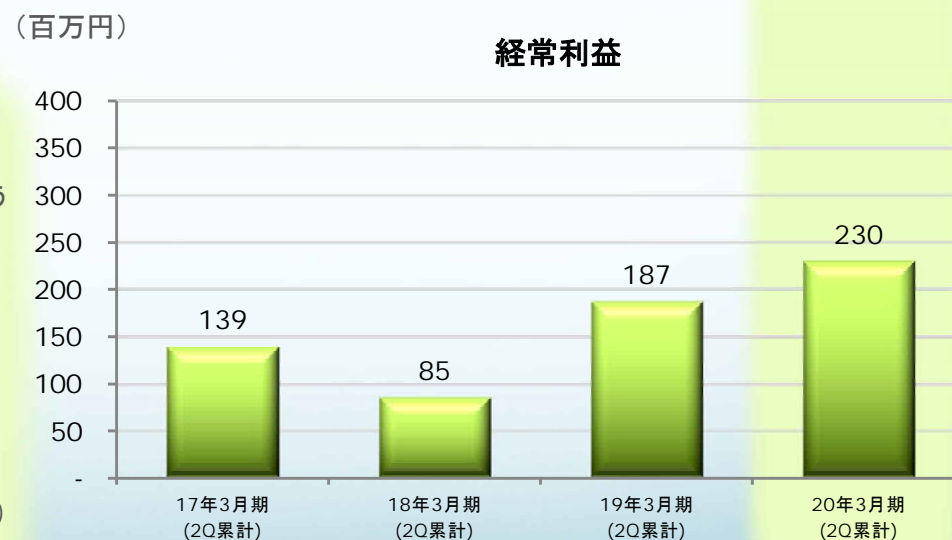
	19年/3月期(2Q累計)		20年/3月期(2Q累計)		前年同期比	
	金額(百万円)	対売上構成比(%)	金額(百万円)	対売上構成比(%)	増減額(百万円)	増減率(%)
売上高	3,930	100.0	4,152	100.0	222	5.7
売上原価	1,863	47.4	1,953	47.1	90	4.9
売上総利益	2,067	52.6	2,198	52.9	131	6.4
販売費及び一般管理費	1,885	48.0	1,977	47.6	92	4.9
営業利益	181	4.6	220	5.3	39	21.6
営業外収益	34	0.9	37	0.9	3	8.7
営業外費用	28	0.7	28	0.7	△0	△1.3
経常利益	187	4.8	230	5.5	42	22.7
特別利益	—	—	—	—	—	—
特別損失	42	1.1	—	—	△42	—
税金等調整前四半期純利益	144	3.7	230	5.5	85	58.9
法人税・住民税及び事業税 法人税調整額等	44	1.1	66	1.6	22	49.6
親会社株主に帰属する 四半期純利益	98	2.5	163	3.9	65	66.3
1株当たり四半期純利益	11.82円		19.78円			

※単位未満の金額は切捨て、百分率は四捨五入。

2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 売上高と経常利益

- 売上高: 4,152百万円
【前年同期 3,930百万円】 +5.7%
- 経常利益: 230百万円
【前年同期 187百万円】 +22.7%
- 親会社株主に帰属する
四半期純利益: 163百万円
【前年同期 98百万円】 +66.3%



Point



次世代自動車関連市場、環境・エネルギー関連市場及び冷凍空調市場を中心に顧客ニーズに合わせたシステム提案営業を積極的に展開し、また、組織人事等海外市場への販売体制強化策の実施や販路開拓活動と研究開発活動を行うと共に、原価低減と経費節減にも努力を重ねてまいりました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、海外売上高が増加したこと等により、41億5千2百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

損益面におきましては、
 営業利益 2億2千万円(前年同期比21.6%増)、
 経常利益 2億3千万円(前年同期比22.7%増)、
 親会社株主に帰属する四半期純利益 1億6千3百万円(前年同期比66.3%増)となりました。

2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 製品群別売上概況

- 電子計測器: 941百万円
【前年同期 787 百万円】 **+19.4%**
- 電源機器: 3,058百万円
【前年同期 3,001 百万円】 **+1.9%**
- その他: 152百万円
【前年同期 140百万円】 **+8.4%**

Point



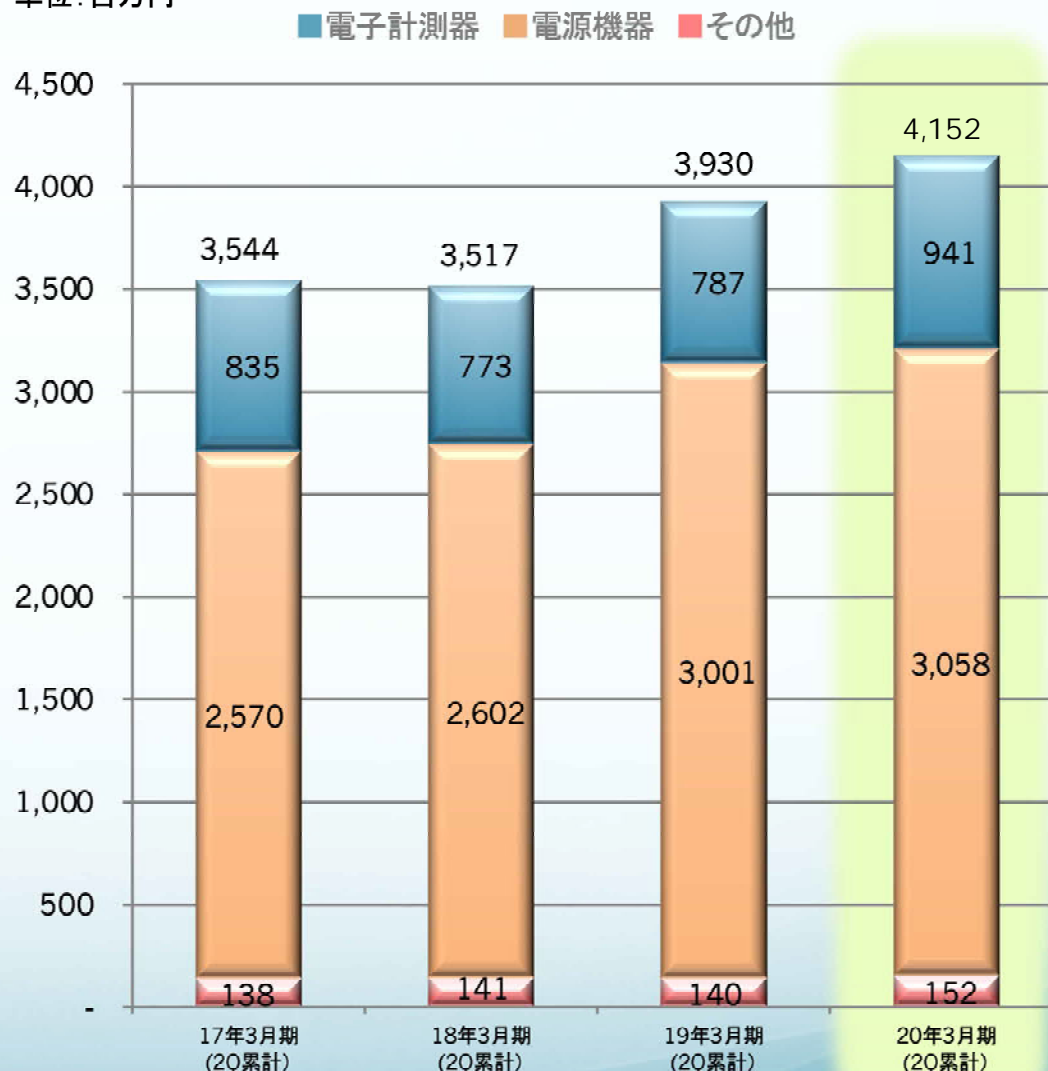
《電子計測器群》

航空機用電子機器の測定器が好調に推移いたしました。また、安全関連試験機器は、耐電圧・絶縁抵抗試験用としてエネルギー市場や車載関連市場において好調に推移いたしました。

《電源機器群》

直流電源は、次世代自動車関連市場への試験用供給電源として動きがありました。装置駆動用途等の需要が減少したことにより、全般的に低調に推移いたしました。交流電源は、小型多機能・大容量製品であるPCR-WE/WE2の販売効果もあり、車載関連市場、情報通信関連市場や航空機産業市場への評価試験や製造設備用として好調に推移いたしました。電子負荷装置は、車載関連市場及び電子部品市場への評価試験用として高電圧大容量のPLZ-5WHを中心に好調に推移いたしました。

単位: 百万円



2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 製品群別売上高構成比

- 電子計測器: 22.6%
【前年同期 20.0%】 **+2.6%**
- 電源機器: 73.7%
【前年同期 76.4%】 **△2.7%**
- その他: 3.7%
【前年同期 3.6%】 **+0.1%**

Point



電子計測器の売上が増加し、電子計測器の構成比率が増加しました。

■ 電子計測器
■ 電源機器
■ その他



● 製品群別売上総利益率

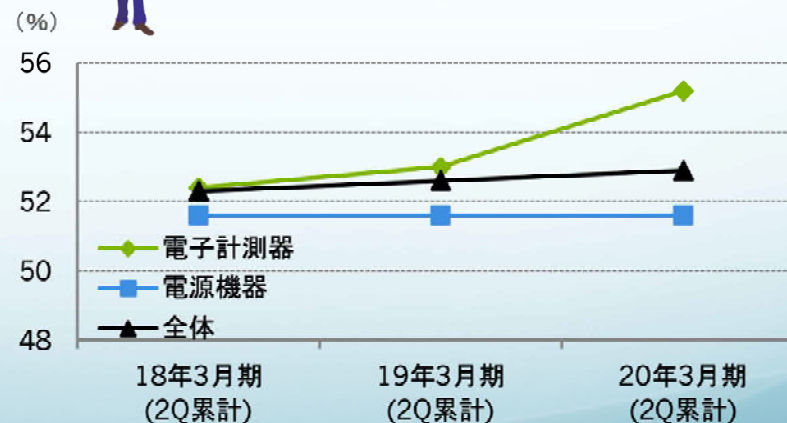
- 電子計測器: 55.2%
【前年同期 53.0%】 **+2.2%**
- 電源機器: 51.6%
【前年同期 51.6%】 **±0.0%**

売上総利益率: 52.9%
【前年同期 52.6%】 **+0.3%**

Point



原価低減の効果により若干改善されました。



2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 海外売上高

- **北米:207百万円**
【前年同期 157百万円】 **+31.8%**
- **欧州:129百万円**
【前年同期 87百万円】 **+47.5%**
- **アジア:1,045百万円**
【前年同期 930百万円】 **+12.4%**
- **その他の地域:5百万円**
【前年同期 4百万円】 **+28.3%**

海外販売高合計:1,388百万円
【前年同期 1,180百万円】 **+17.6%**

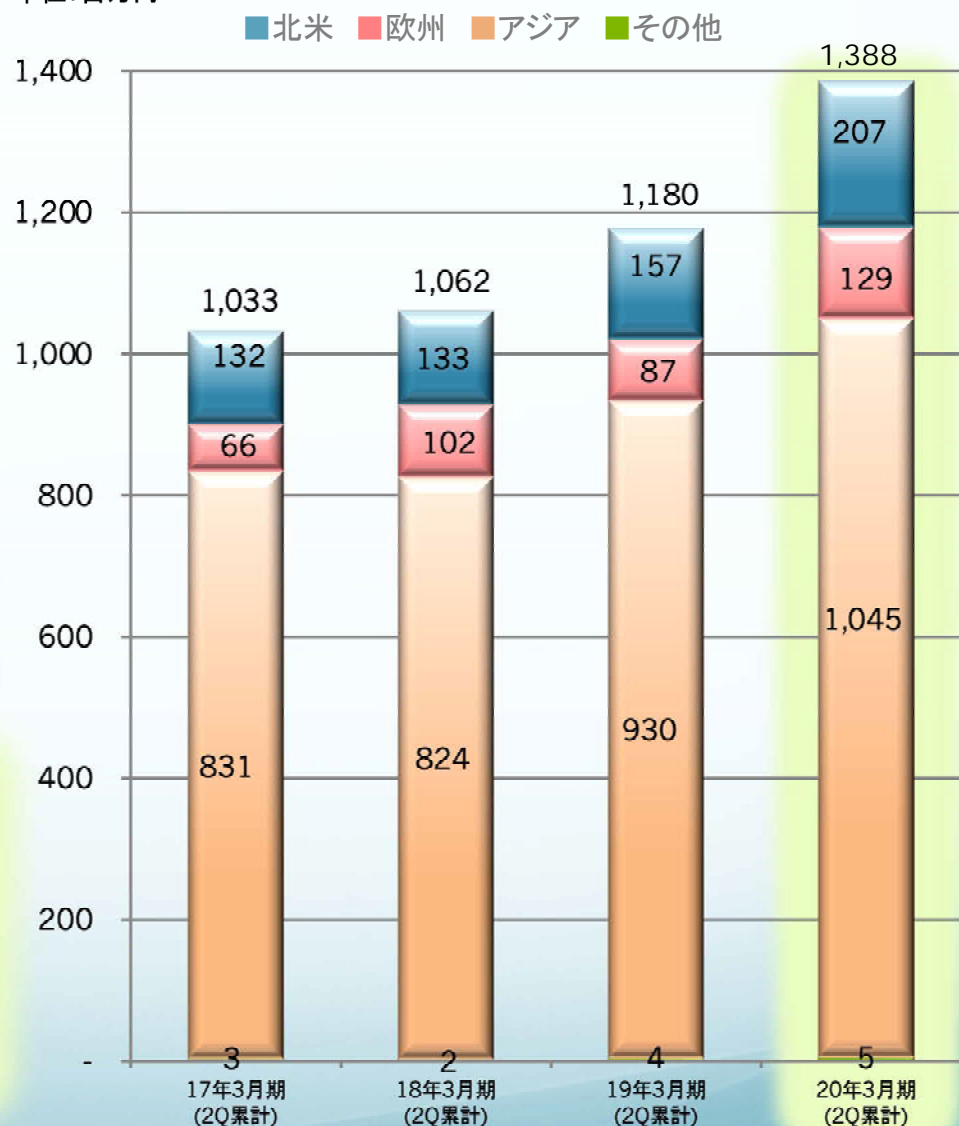
Point



米国では、航空宇宙産業市場向け直流電源、ICT(情報通信技術)関連市場や航空宇宙産業市場への交流電源及び半導体市場への電子負荷装置が好調に推移いたしました。欧州では、航空機産業市場への交流電源や車載関連市場向けの電子負荷装置が好調に推移いたしました。

アジアにおいては、中国では米中貿易摩擦の影響があったものの、エネルギー市場への安全関連試験機器や電子負荷装置に動きが見られました。韓国では次世代自動車関連市場への交流電源や電子負荷装置、また、東南アジアではICT関連市場への交流電源がそれぞれ好調に推移いたしました。

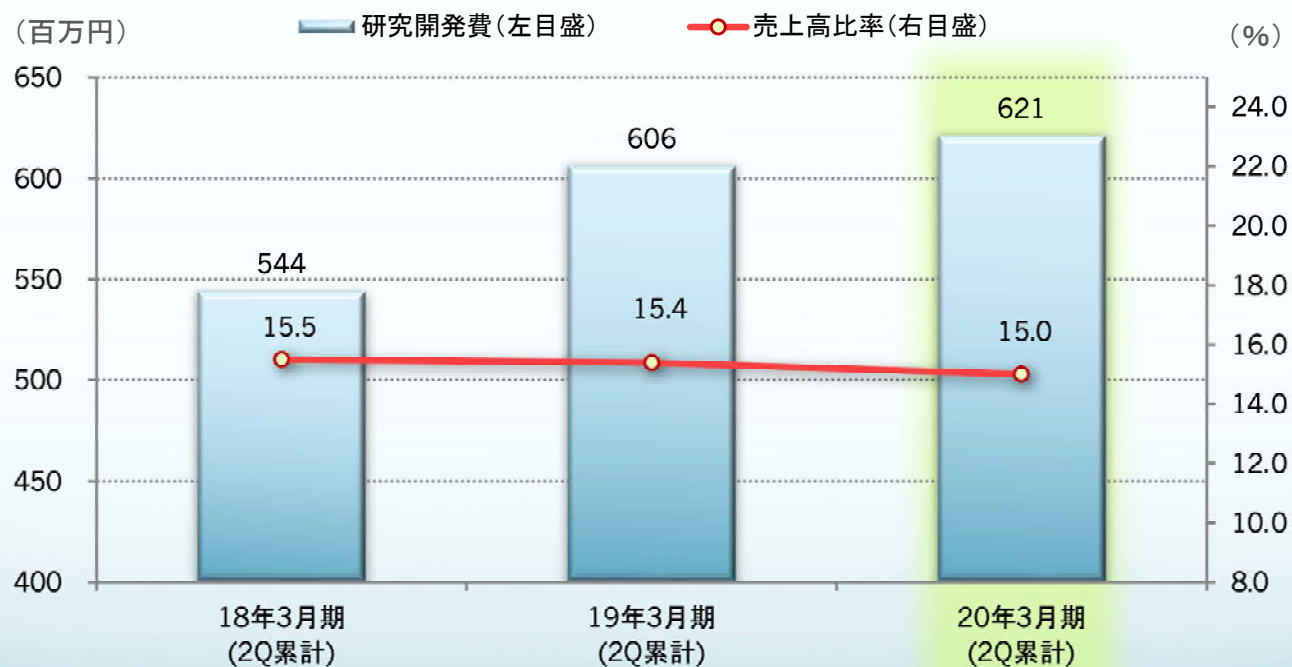
単位:百万円



2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

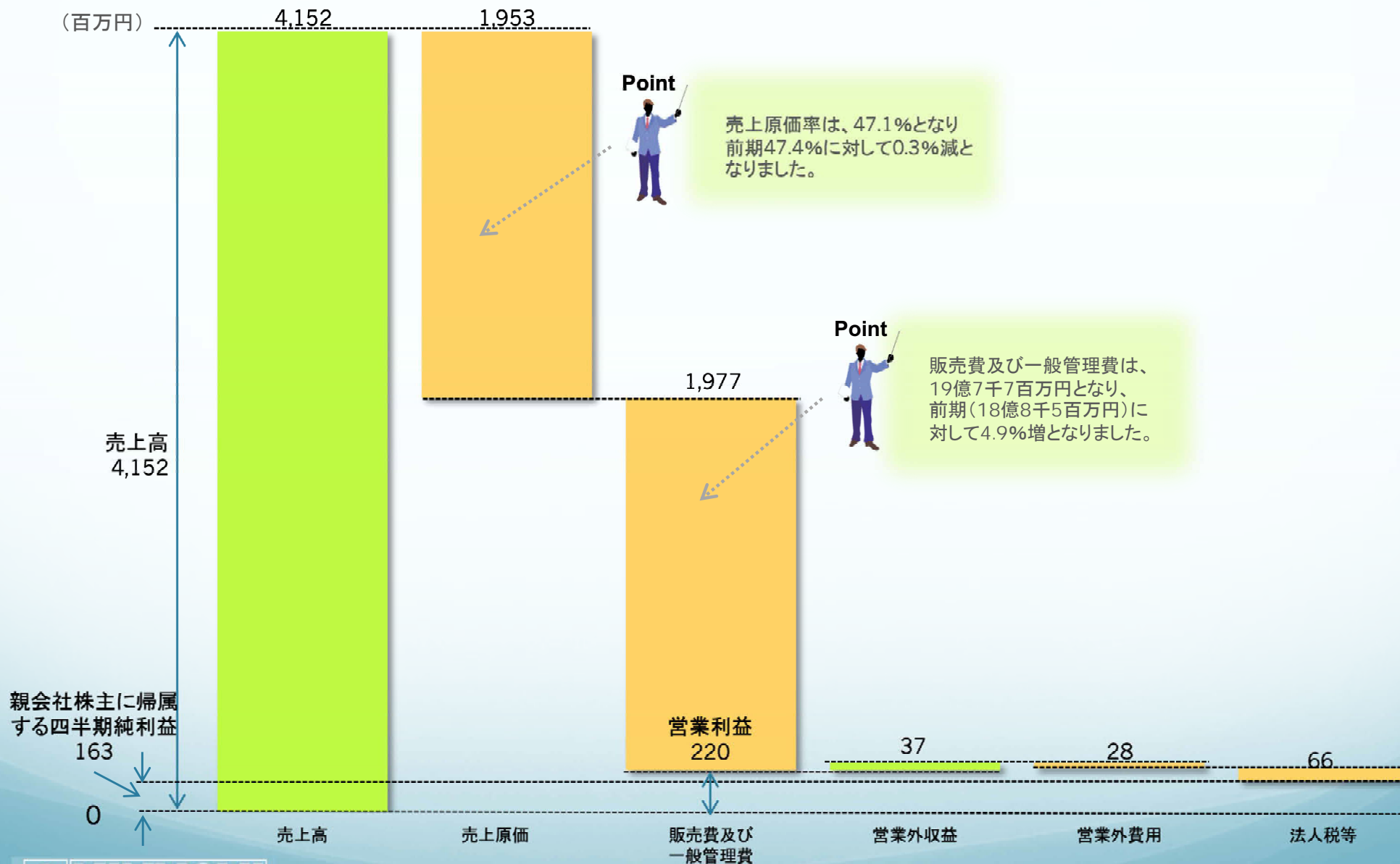
- 研究開発投資 (対売上高比率)

- 621百万円 (15.0%)
【前年同期 606百万円 (15.4%)】



2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 損益の概況



2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● 貸借対照表

(百万円)

【資産の部】	19/3/31	19/9/30	増減
流動資産合計	6,927	6,384	△542
固定資産合計	4,832	4,797	△34
資産合計	11,759	11,181	△577
【負債の部】	19/3/31	19/9/30	増減
流動負債合計	1,705	1,239	△465
固定負債合計	649	620	△28
負債合計	2,354	1,859	△494
【純資産の部】	19/3/31	19/9/30	増減
資本金	2,201	2,201	-
資本・利益剰余金	7,518	7,502	△15
自己株式	△820	△806	14
その他の包括利益累計額合計	505	424	△81
純資産合計	9,404	9,321	△82

2020年3月期 第2四半期累計 連結業績概要

● キャッシュ・フロー

【CF計算書】 単位:百万円	17年/9月期	18年/9月期	19年/9月期
営業活動によるキャッシュ・フロー	135	228	250
投資活動によるキャッシュ・フロー	△168	△353	△179
財務活動によるキャッシュ・フロー	△192	△214	△191
現金及び現金同等物の増減額	△222	△340	△130
現金及び現金同等物の期首残高	2,867	2,533	2,206
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,645	2,192	2,076

Point



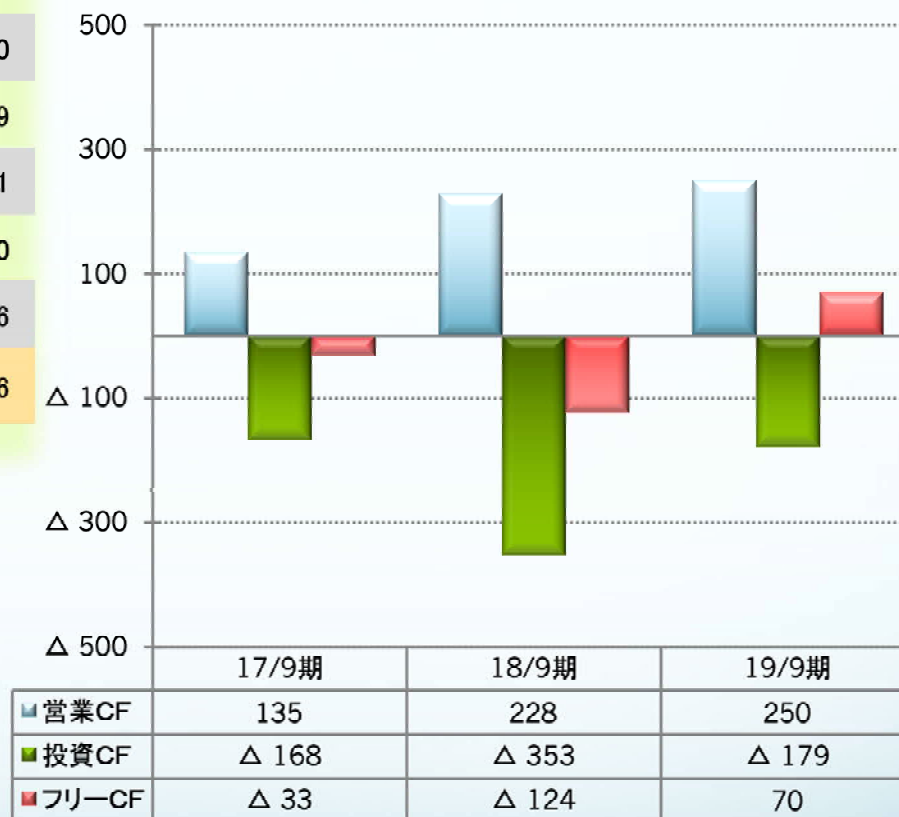
営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益の計上、売上債権の減少等による資金の増加が、たな卸資産の増加等による資金の減少を上回り、2億5千万円となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得等により、△1億7千9百万円となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払い等により、△1億9千1百万円となりました。

現金及び現金同等物は、前連結会計年度の期末残高に比べ、1億3千万円減少し、20億7千6百万円となりました。

(百万円)



2020年3月期 連結業績予想

2020年3月期 連結業績予想

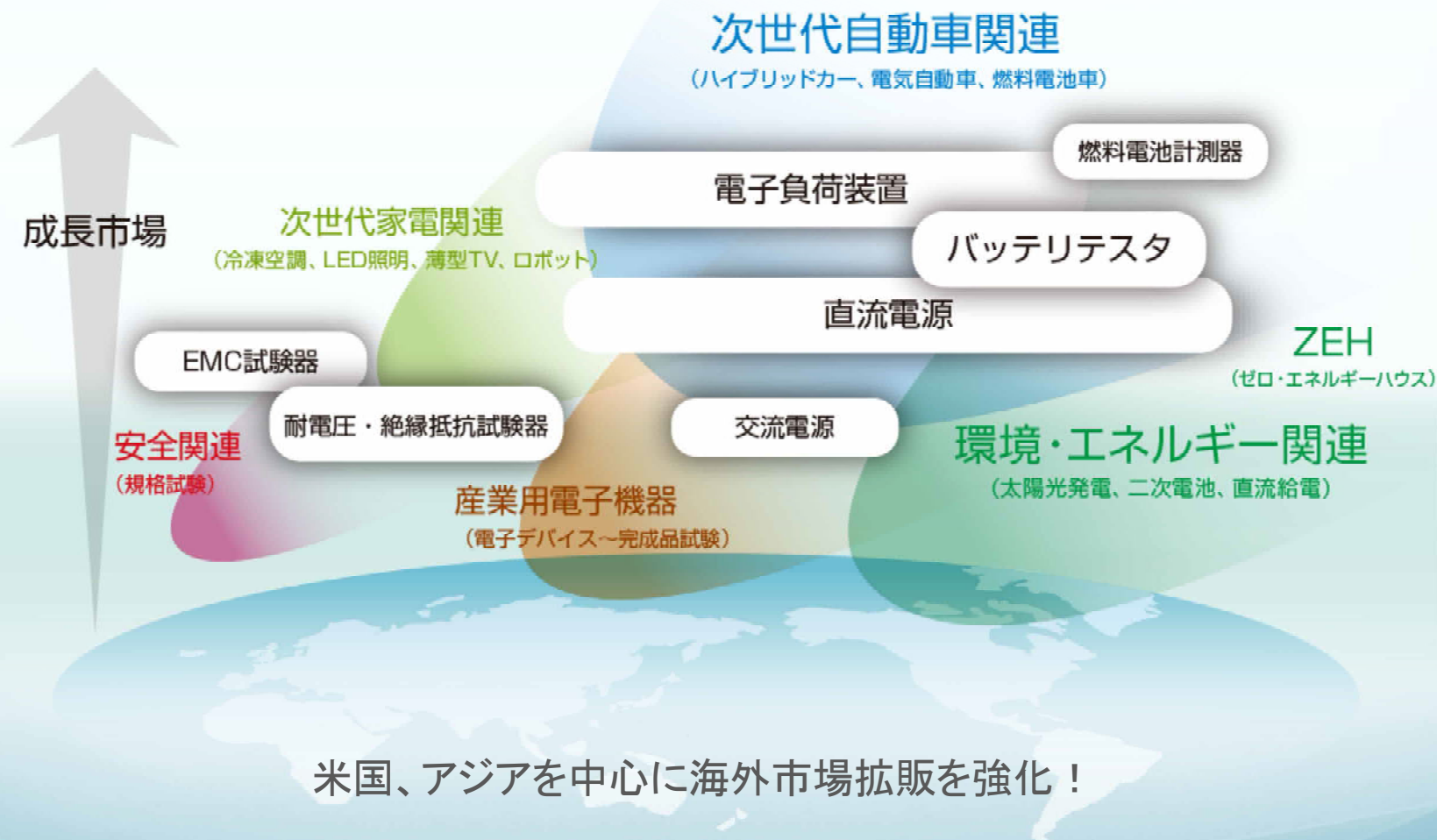
	19年/3月期	20年/3月期		
	当期実績(百万円)	通期予想(百万円)	前期比増減額(百万円)	前期比増減率(%)
売上高	8,917	9,000	83	0.9
営業利益	696	700	4	0.5
経常利益	701	710	9	1.2
親会社株主に帰属する 当期純利益	443	460	17	3.7

	19年/3月期	20年/3月期		
	当期実績(円)	通期予想(円)	前期比増減額(円)	前期比増減率(%)
1株当たり 配当金	23.00	23.00	—	—

今後の事業戦略

今後の事業戦略

次世代自動車分野に注力



米国、アジアを中心に海外市場拡販を強化！

本資料における注意事項

本資料は、2020年3月期第2四半期決算の業績に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。また、本資料は2019年10月30日現在のデータに基づいて作成されております。本資料に記載された意見や予測等は、資料作成時点の当社の判断であり、その情報の正確性、完全性を保証し、又は約束するものではなく、今後予告なしに変更されることがあります。

[本資料および当社IRに関するお問い合わせ先]

菊水電子工業株式会社 総務部 IR担当

TEL: 045(482)6912 E-mail: ir@kikusui.co.jp URL: <http://www.kikusui.co.jp/>